

第31回北東アジア地域研究会・国立民族学博物館拠点（月例会）報告

令和元（2019）年10月29日に国立民族学博物館内において第31回月例会を開催いたしました。池谷和信拠点長が「日本の山村研究の最前線－佐々木高明氏の写真からの展望－」と題して発表いたしました。日本の山村研究のレビューを行いながら、佐々木高明・第2代民博館長が調査を行った熊本県五木村の写真から焼畑研究を再考しました。

北東アジア館内構成員4名、館内研究者3名、民博外来研究者1名、総研大学院生2名の合計10名が参加しました。

【発表要旨】

日本の山村文化を対象にした研究は、戦前から現在に至るまで、文化人類学、民俗学、地理学、歴史学、社会学など、多様な分野で行われてきた。民博においても佐々木高明氏、松山利夫氏などの研究の蓄積がみられる。そこで、今回は、今年の5月に一般公開された佐々木高明氏の撮影した写真（データベース「焼畑の世界」、とくに熊本県五木村）を対象にして、①そこから何が読み取れるのか、②日本の山村研究や北東アジア地域研究への貢献はどのようなものがあるのかなどを把握することがねらいである。そして、③北東アジアにおけるデータベースと研究成果とのかかわり方などについても論議される。